



# 2026年度 「Innovation for Cool Earth Forum (ICEF)」の実施に係る国際連携及び情報 発信等事業

## 公募説明会 資料

**公募期間：2026年1月23日（金）～2月24日（火）正午**

※Teamsのマイク、カメラはOFFでお願いします。  
※質疑の際はTeamsの挙手機能をご利用ください。

NEDO 事業統括部

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

# 目次

<b><u>I. ICEF概要と2025年結果</u></b>	-----	p.3-10
<b><u>II. 公募概要</u></b>	-----	p.11-22
<b><u>III. 委託先の選定</u></b>	-----	p.24-26
<b><u>IV. 仕様書概要</u></b>	-----	p.28-35
<b><u>V. 問い合わせ先</u></b>	-----	p.37

**I. ICEF概要と2025年結果** ----- p.3-10

**II. 公募概要** ----- p.12-22

**III. 委託先の選定** ----- p.24-26

**IV. 仕様書概要** ----- p.28-35

**V. 問い合わせ先** ----- p.37

- 経済産業省とNEDOが主催する、エネルギー・環境関連の国際会議を集中的に開催する「東京GXウィーク」の中の一つ
- 地球温暖化問題を解決する鍵である「イノベーション」を推進するため、世界の産学官のリーダーが議論する知のプラットフォームとして、2014年から東京で毎年開催している。2025年に第12回目を迎えた。
- 最先端の知見を世界に発信し、気候変動の脅威に対する人々の意識を高め、行動変容の促進を目指す
- 多様性がイノベーションの源泉であるという認識の下、ジェンダー平等と若手世代の参画を推進
- 外務省、文部科学省、農林水産省、環境省が共催
- IEA、BloombergNEF、UNIDO、IRENAが後援
- 公式ウェブサイト: <https://www.icef.go.jp/jp/>



## ◆ ICEF運営委員会（委員長：田中伸男氏）と経産省、NEDOが企画・運営

ICEF運営委員（2024-2025年）※ICEF2025時点

委員長



日本

田中 伸男  
ICEF運営委員長  
元国際エネルギー機  
関(IEA)事務局長



ケニア

アドナン・アミン  
ハーバード大学科学・国  
際関係ベルファーセンター  
シニアフェロー  
国際再生可能エネル  
ギー機関 (IRENA)  
名誉事務局長  
COP28 議長上級顧問



アメリカ

サリー M. ベンソン  
ホワイトハウス科学技術政  
策局  
副所長・最高戦略責任者  
スタンフォード大学教授 (エ  
ネルギー理工学)



ドイツ

ゲオルク・エアトマン  
ベルリン工科大学エネルギ  
ーシステム退官教授、  
KSB Energie AG 理事長



フィンランド/ベルギー

エイヤ・リイタ・  
コーホラ  
欧州経済社会評議  
会CCMI代表



日本

黒田 玲子  
中部大学先端研究  
センター特任教授・  
東京大学名誉教授、  
G7 GEAC(男女共  
同参画諮問委員会)  
2023 委員



韓国

ホーセン・リー  
気候変動に関する政府間  
パネル (IPCC) 元議長  
カーボンフリーアライアンス  
会長



インド

ヴィクラム・S・メータ  
センター・フォー・ソーシャル・  
アンド・エコノミック・プログレス  
(CSEP)研究財団 会長



イギリス

ジョン・D・ムーア  
ブルームバーグNEF  
CEO



南アフリカ

パリー・ムーサ  
大統領気候変動委  
員会 副議長  
元国際自然保護連  
合 (IUCN) 会長



オーストリア/セルビア

ネボイシャ・  
ナキチエノヴィッチ  
欧州委員会主要科学アドバ  
イザーグループ (GCSA)  
バイスチエア  
国際応用システム分析研究  
所 (IIASA) 名誉研究員  
ウィーン工科大学 エネルギー  
経済 名誉教授



日本

坂野 晶  
一般社団法人ゼロ・ウェイ  
スト・ジャパン 代表理事  
一般社団法人Green  
innovation 共同代表  
株式会社ecommit  
取締役CSO (Chief  
Sustainability  
Officer)



アメリカ

デービッド・サンダロー  
元米国エネルギー省次官  
代行、  
コロンビア大学世界エネル  
ギー政策センター創立フェ  
ロー  
コロンビア大学国際関係公  
共政策大学院エネルギー・  
環境部門  
共同ディレクター



エジプト

イスマイル・  
セラゲルディン  
ニザーミー・キャンジャ  
ヴィー国際センター評  
議会 議長  
アレクサンドリア図書館  
創立名誉館長  
元世界銀行副総裁



カナダ

バーツラフ・シュミル  
マニトバ大学特別名誉教授



アメリカ/中国

ウー・チャンホウ  
ジェレミー・リフキンオフィス  
中国・アジアディレクター  
アジア・太平洋水フォーラ  
ム執行審議会 議長



日本

山地 憲治  
公益財団法人地球環  
境産業技術研究機構  
(RITE) 理事長  
東京大学 名誉教授

- 12回目を迎えた2025年は、本会議のメインテーマを「グリーントランスフォーメーション（GX）と安全保障へのイノベーション」として、19か国・地域から57人（17名のICEF運営委員によるモデレーター、40名の登壇者）の有識者が10のセッションで、地球温暖化を考える上で注目となる技術・テーマについて議論。2日間で延べ約650名が対面参加。
- ICEF運営委員会によるICEFステートメント及びカーボンニュートラル達成に向けて短期的・長期的に貢献する主要な革新的技術の道筋、手法を提言するICEFロードマップ「持続可能なデータセンター」を発表。



武藤経産大臣の開会挨拶



セッションの様子

# ICEF2025タイムテーブル



		10/8 (水)	10/9 (木)		
JST	EDT			JST	
9:00	20:00			9:00	
		開会式 (9:30-9:45)			
10:00	21:00	キーノート (9:50-11:00)	CO2除去技術 (9:30-10:30)	10:00	
11:00	22:00	安全保障 (11:05-12:05)	ロードマップ (10:40-11:50)	11:00	
12:00	23:00	原子力 (12:10-13:10)	昼食 (12:00-13:00)	12:00	
13:00	0:00	昼食 (13:15-14:15)	天然水素(13:05-13:35)	13:00	
14:00	1:00	適応 (14:20-15:20)	スタートアップ (13:40-14:40)	14:00	
15:00	2:00	再エネ (15:25-16:45)	コーヒーブレイク (14:40-15:00)	15:00	
16:00	3:00	ネットワーキング (16:45-17:05)	水素 (15:05-16:05)	16:00	
17:00	4:00	夕食 (委員・登壇者) (17:35-18:50)	閉会式 (16:10-16:55)	17:00	
18:00	5:00			18:00	

※10/7 (火) 夕方にICEF運営委員会 (2時間程度) を別途開催

# ICEF2025セッション構成

- ICEF2025では開会式・閉会式を除く合計10セッションを開催
- ICEF運営委員がモデレーターとなり、各セッション毎に登壇者3～4名程度を招待
- 今年度は議論とQ&Aに重点を置き、セッション時間60分のうち、各登壇者の個別発表は最大3分程度、プレゼン資料は1～2枚程度とした

## ICEF2025テーマ一覧

メインテーマ「グリーントランスフォーメーション（GX）と安全保障へのイノベーション」

- キーノート
- カーボンニュートラルと安全保障に向けた国際連携
- 原子力の利活用
- 気候変動への適応とレジリエンスを通じた安全保障
- 再生可能エネルギーの未来
- 二酸化炭素の除去と利活用
- ICEFロードマッププロジェクト：持続可能なデータセンター（主にロードマップの解説）
- クリーン水素技術の推進
- 天然水素
- サーキュラーエコノミー×スタートアップ

各セッションの詳細と動画はICEF2025結果概要をご覧ください

<https://icf.go.jp/jp/reports/>

- ICEF運営委員によるメッセージをステートメントとして、ICEF年次総会閉会式にて発表（日・英）

## ICEF2025 ステートメント

**ICEF2025 Steering Committee Statement**

October 9, 2025 | Tokyo, Japan

Under the main theme of “Innovation for Green Transformation (GX) and Security”, the twelfth annual meeting of the Innovation for Cool Earth Forum (ICEF2025) was convened on October 8–9, 2025, in Tokyo and online. More than 3,000 persons from over 100 countries and regions registered this year’s discussions.

ICEF remains unique in its decade-long dedication to advancing innovation across technology, policy, institutions, finance, and society to accelerate the global transition toward a carbon-neutral, resilient, just, secure, and affordable future. ICEF2025 was organized as part of Tokyo GX Week, a series of 20 international conferences addressing energy, climate, and environmental challenges.

### 1. Where We Stand

- **The urgency is undeniable.**  
The IPCC underscores the imperative that global emissions must peak by 2025, and bend down the emissions curve by nearly half within this decade to preserve a livable climate and reach net zero by 2050. With the world already surpassing 1.5°C of warming, escalating climate impacts - from record-breaking heatwaves and catastrophic floods to prolonged droughts - make clear that the window for effective action is closing rapidly. Decisions and investments made today will define whether we achieve this milestone or face irreversible setbacks.
- **Progress and challenges coexist.**  
For the first time, global wind and solar generation surpassed coal in 2025, signaling a historic turning point in the power sector. Global energy investment exceeded USD 3 trillion in 2024, with two-thirds directed toward clean energy technologies and infrastructure. Costs of solar, wind, and battery systems have been reduced by 60% to 90% over the past decade. Yet, progress is uneven. Misalignment between policy, finance, governance and innovation, combined with geopolitical and geo-economic fragmentation, is slowing down the scaling of infrastructure and complicating international cooperation.
- **Climate ambition remains insufficient.**  
While nearly 120 countries and the EU have submitted their 2035 targets under the NDC 3.0 cycle, collective ambition remains off track from a Paris-aligned trajectory. The missed February 2025 NDC deadline by many countries highlights the persistent ambition-implementation gap. At COP30 in Brazil it is expected to focus on adaptation, the multilateral process risks fragmentation without renewed coordination.
- **Security and GX are inseparable.**  
Energy security, supply chain resilience, and access to critical minerals are now front-line concerns. These are amplified by geopolitical tensions and market nationalism. A new paradigm of innovation must therefore couple green transformation with security resilience, ensuring pathways to carbon neutrality also deliver reliability, affordability, and stability.



閉会式で発表する山地委員

詳細は以下をご覧ください。

<https://www.icef.go.jp/jp/statement/>

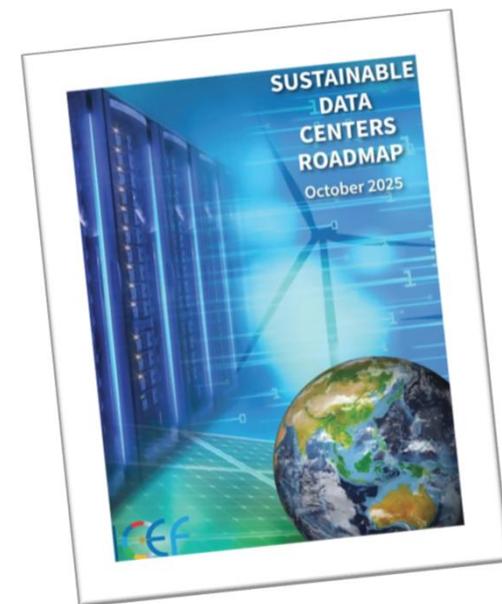
- カーボンニュートラル達成に向けて短期的・長期的に貢献する主要な革新的技術の道筋、手法を提言するロードマップを作成
- ICEF年次総会のロードマッププロジェクトセッション（ロードマップ解説セッション）で発表

## ICEF 2025 ロードマップ：「持続可能なデータセンター」

本ロードマップでは、消費電力の増大に加え、建設・運用に伴う排出ガスや水資源利用の問題を整理し、持続可能な発展に向けた技術的・政策的な方向性を多面的に示している。また、クリーンエネルギーの実用化を通じた新たな貢献の可能性についても提案。詳細は以下URLをご覧ください。



年次総会セッションの様子



<https://www.icef.go.jp/jp/roadmap/>

# ICEF運営委員会・ICEF年次総会について

- ICEF運営委員会：
  - 17名のICEF運営委員が参加し、ICEF年次総会のメインテーマ、セッションテーマ、登壇者候補、ロードマップ、ステートメント等の企画案を議論。事務局は、経産省・NEDO。
- ICEF年次総会：
  - ICEF運営委員会で議論された内容に基づき、開会式、キーノート、本会議（各テーマのセッション）、閉会式等を実施。毎年10月に都内で実施。

## ICEF運営委員会 (オンライン)

- ・ 次回ICEF年次総会のテーマ、セッション案等を議論

## ICEF運営委員会 (オンライン)

- ・ ICEF年次総会開催に向けた各セッションの進捗状況等を議論

## ICEF運営委員会 (東京)

- ・ 年次総会本番の直前確認。ステートメント案などを議論
- ・ 原則、年次総会前日に開催

## ICEF年次総会 (東京)

- ・ 年次総会本番
- ・ ステートメント発表、ロードマップ原案発表

3月 (予定)

6月 (予定)

10月

**I. ICEF概要と2025年結果** ----- p.3-10

**II. 公募概要** ----- p.12-22

**III. 委託先の選定** ----- p.24-26

**IV. 仕様書概要** ----- p.28-35

**V. 問い合わせ先** ----- p.37

### 第13回ICEF年次総会（予定）

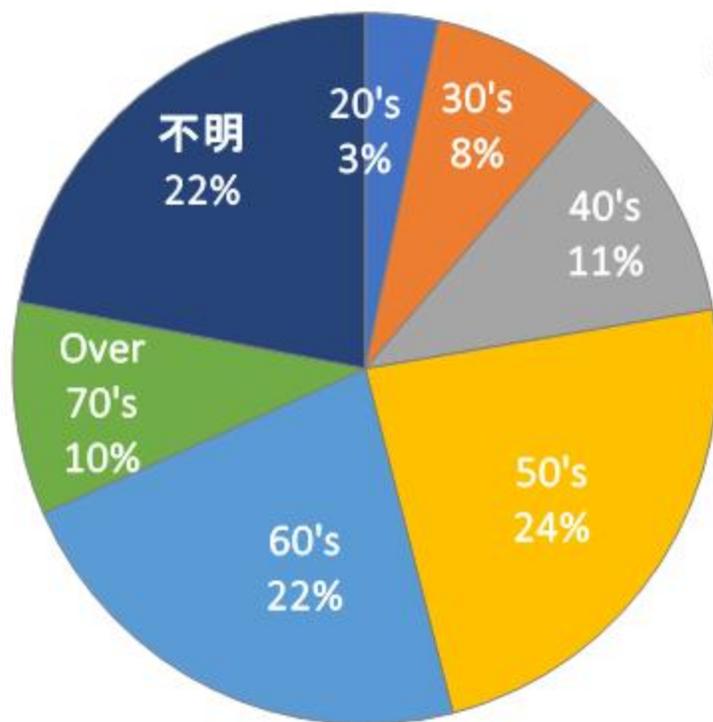
- **日程**：2026年10月7日（水）・8日（木）のうち、1日もしくは2日を予定（ただし、「東京GXウィーク」の開催時期等によっては、日時を変更する可能性がある）。
- **場所**：都内ホテルを予定
- **主催**：NEDO、経済産業省
- **開催規模**：国内外から対面・オンライン合計約2,000名の参加登録者を想定。  
（2025年度参加数実績：2日間で延べ約650名）。
- **開催方式**：登壇者及び聴衆者が対面又はオンラインで参加するハイブリット形式。なお、1日開催の場合は、2つの会議室による並行セッションを想定。
- **セッション構成**：開会式、キーノート・セッション、本会議（各セッション）、閉会式等で構成されると想定。開会式・閉会式を除く総セッション数は8程度を想定。  
（【参考】2025年度実績：総セッション数10）
- **使用言語**：原則、英語（同時通訳手配）

### 【参考】 1日開催並行セッションの例

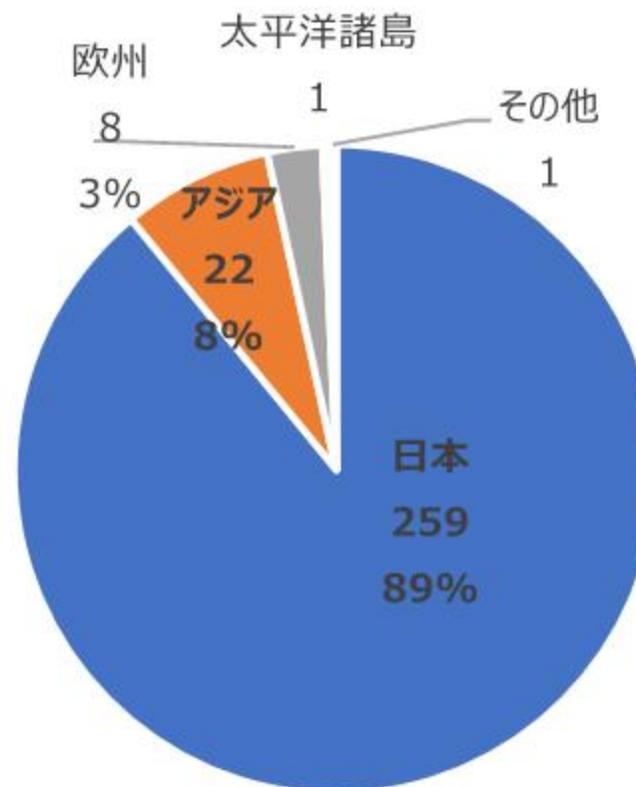
	前日	当日	
		会場1 (メイン)	会場2
午前 (9:30-12:00)		開会式 キーノート セッション1	
午後 (13:00-17:00)	ICEF運営委員会	セッション2 セッション3 セッション4	セッション5 セッション6 セッション7
		閉会式	

### 【参考】 ICEF2025 参加者実績の内訳

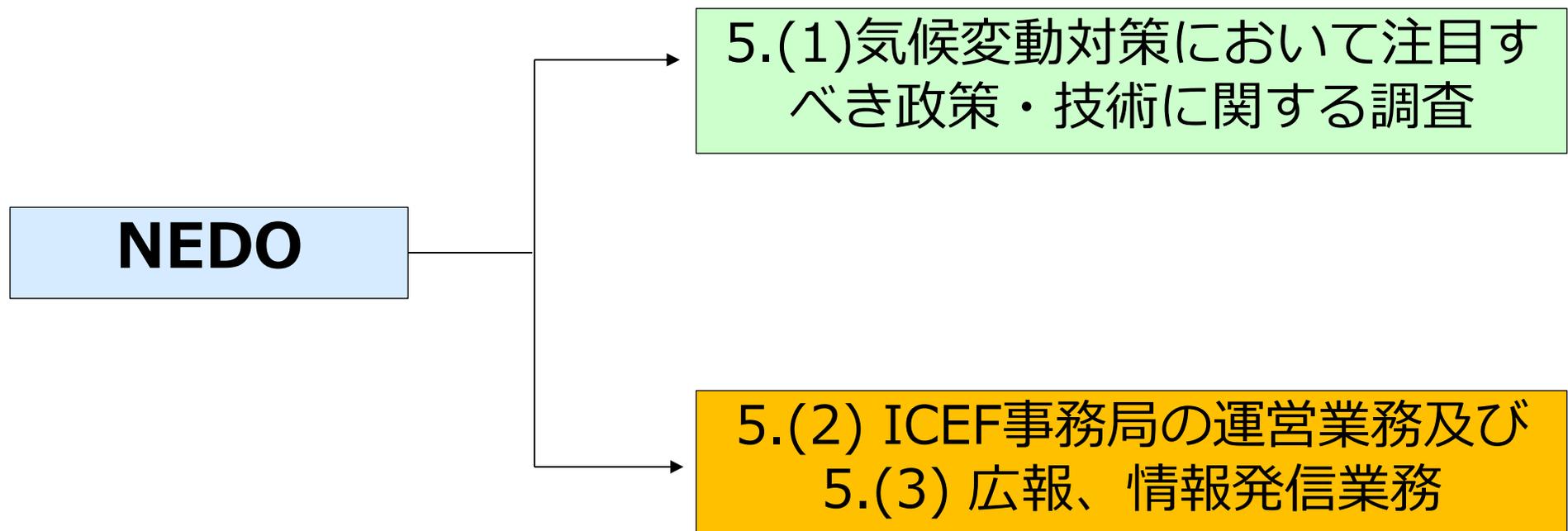
年代別 来場者割合



国・地域別  
来場者数



- 仕様書【5.(1)気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査】、または、【5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務】のいずれかを満たす内容で公募
- 【5.(1)】及び【5.(2)、5.(3)】を合わせて一つの提案とする応募は受け付けません



### 5.(1)気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

- ① ICEF年次総会等におけるセッションに関連する調査内容
- ② ロードマップに関連する調査内容
- ③ ステートメントに関連する調査内容

### 5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

- 5.(2)
- ① 迅速なICEF事務局の立ち上げ
  - ② 運営委員会の運営・手配
  - ③ ICEF年次総会の運営・手配

- 5.(3)
- ① ICEF広報戦略策定及び実施
  - ② 公式ウェブサイト及びオンライン動画配信等の企画運営
  - ③ 広報素材の作成・展示
  - ④ ICEFの普及に関する広報活動

- **委託期間**

NEDOが指定する日から2027年3月31日まで

- **予算規模**

1 提案あたりの目安：

仕様書 5.（1）：およそ73,000千円以内

仕様書 5.（2）及び5.（3）：およそ200,000千円以内

※目安であって、変更があり得る。

※共同提案の場合は共同者の合算額とします。

※今後、日数やセッション数が確定することで、変更があり得る。

- **応募資格**

- 本事業への応募資格は、次のa. からc. までのすべての条件を満たすことができる、単独又は複数で受託を希望する企業等とします。

a. 環境・エネルギー技術に関する国際的な調査実績および国際的なイベントの運営や大規模会議の運営についてのノウハウや知識を有し、かつ、本事業の内容の遂行に必要な組織、人員を有していること。

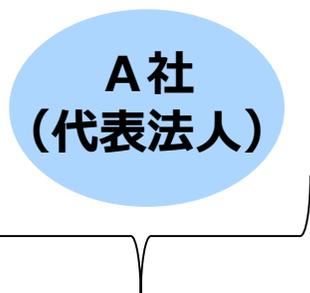
b. 当該委託業務を円滑に遂行するために必要な経営基盤、資金等について十分な管理能力を有し、かつ情報管理体制等を有していること。

c. NEDOが調査／事業を推進する上で必要とする措置を、適切に遂行できる体制を有していること。

- 応募資格を満たす提案者は、単独又は共同での提案が可能
- 共同提案の場合は、代表法人を定めて提案
- 「5.(1)」及び【5.(2)、5.(3)】を合わせて一つの提案とする応募は受け付けません

例

単独提案

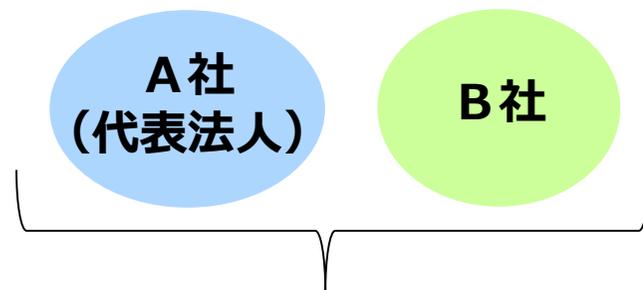


## 5. (1) 気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

- ① ICEF年次総会等におけるセッションに関連する調査内容【担当：A社】
- ② ロードマップに関連する調査内容【担当：A社】
- ③ ステートメントに関連する調査内容【担当：A社】

例

共同提案



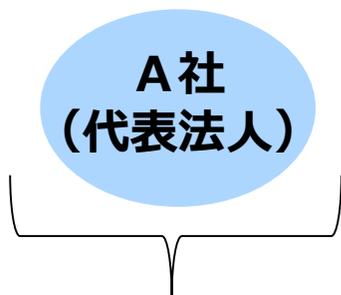
## 5. (1) 気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

- ① ICEF年次総会等におけるセッションに関連する調査内容【担当：A・B社】
- ② ロードマップに関連する調査内容【担当：A社】
- ③ ステートメントに関連する調査内容【担当：B社】

- 応募資格を満たす提案者は、単独又は共同での提案が可能
- 共同提案の場合は、代表法人を定めて提案
- 「5.(1)」及び【5.(2)、5.(3)】を合わせて一つの提案とする応募は受け付けません

例

単独提案



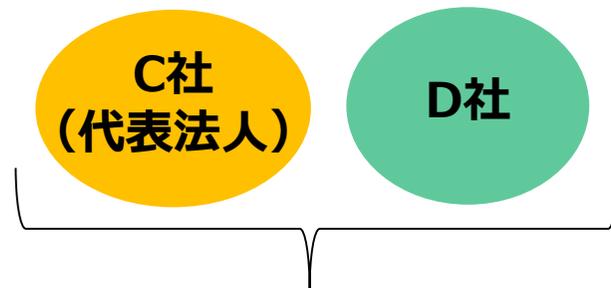
## 5. (1) 気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

- ① ICEF年次総会等におけるセッションに関連する調査内容【担当：A社】
- ② ロードマップに関連する調査内容【担当：なし】
- ③ ステートメントに関連する調査内容【担当：なし】

提案区分を満たしていないので、提案不可

例

共同提案



## 5. (2) ICEF事務局の運営業務

- ① 迅速なICEF事務局の立ち上げ【C社】
- ② 運営委員会の運営・手配【D社】
- ③ ICEF年次総会の運営・手配【C・D社】

## 5. (3) 広報、情報発信業務

- ① 迅速なICEF事務局の立ち上げ【担当：なし】
- ② 運営委員会の運営・手配【担当：なし】
- ③ ICEF年次総会の運営・手配【担当：なし】

提案区分を満たしていないので、提案不可  
(5.(2)と5.(3)は合わせて提案が必要)

## (1) 提出期限及び提出方法

※昨年度から  
の変更点

### 2026年2月24日（火）正午までに 電子申請システム「jGrants」上で申請完了

- 持参、郵送、FAX又は電子メールによる提出は受け付けません。
- 「応募要件」を満たさない者の提出書類又は不備がある提出書類は受理できません。
- 提出書類に不備があり、提出期限までに修正できない場合は、提案を無効とさせていただきます。受理後であっても、応募要件の不備が発覚した場合は、無効となる場合があります。
- jGrants上の申請は、提出期限を厳守ください。提出期限までに申請完了できなかった場合は、応募は受け付けできませんので、余裕をもって提出してください。
- 再提出は受付期間内であれば何度でも可能です。
- その他注意事項は公募要領5～6ページを必ずご確認ください。

## (2) 提出先（jGrants公募ページ申請）

公募要領5ページに記載の指定URLから申請をお願いします。jGrantsの使用にあたっては、事前にGビズIDの「GビズIDプライムアカウント」または「GビズIDメンバーアカウント」が必要です。

【参考】NEDO事業の公募におけるjGrantsでの応募受付について

[https://www.nedo.go.jp/koubo/ZZAN\\_100061.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/ZZAN_100061.html)

提出書類
提出書類のチェックリスト
別添1：提案書
別添2：提案者情報
別添3：ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況
別添4：NEDO事業遂行上に係る情報管理体制の確認票
直近の事業報告書 直近3年分の単体／連結財務諸表（原則、円単位）

※ 詳細は公募要領7ページならびに「提案書類のチェックリスト」を必ずご確認ください。

## 別添 1 : 提案書

(※補足事項)

### 7. 調査計画

当該調査を進めるためには、仕様書における調査項目をどのように細分し、どのような手順で行うのか、また、どの程度の経費が必要となるかを一覧表にまとめてください。なお、参考のため、投入する予算額、投入する研究員の人数を記入してください。

※共同提案の場合、それぞれの役割分担が分かるように記載してください。

### 8. 調査体制図

当該調査を受託したときの実施体制図及び業務実施者の調査に関する実績について示してください。

※共同提案の場合、具体的な業務・役割分担について、テーマごとに、共同提案者の分担を記載してください

### 9. 予算の概算

調査に必要な概算額について、調査委託費積算基準（※）に定める経費項目に従って、総括表を記載してください。共同提案の場合は、提案者毎に総括表を記載してください。

※労務費（人数）や外注費などは内訳も記載してください。

**I. ICEF概要と2025年結果** ----- p.3-10

**II. 公募概要** ----- p.12-22

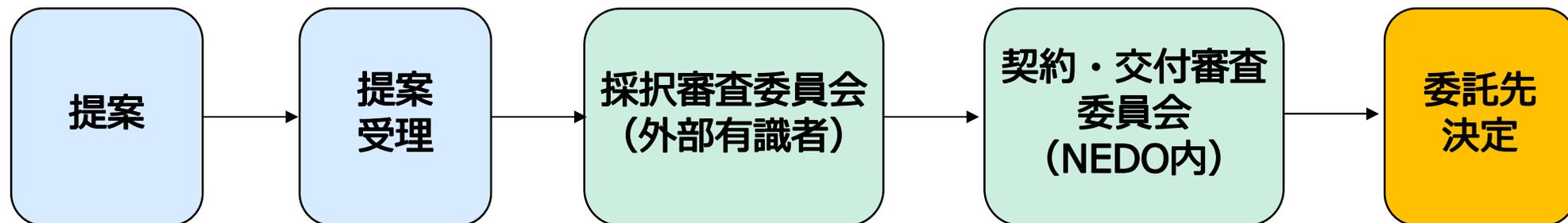
**III. 委託先の選定** ----- p.24-26

**IV. 仕様書概要** ----- p.28-35

**V. 問い合わせ先** ----- p.37

## (1) 審査方法

- 提案受理後、外部有識者による「採択審査委員会」とNEDO内の「契約・交付審査委員会」の二段階で審査します。
- 外部有識者による採択審査委員会で審査の上、その結果を踏まえて、NEDO内の契約・交付審査委員会を経て、最終的に実施者を決定します。
- 必要に応じてヒアリング審査や資料の追加、代表者面談等をお願いする場合があります。なお、採択先の選定は非公開で行われ、審査の経過等、審査に関する問い合わせには応じられませんのであらかじめご了承ください。



#### (2) 審査基準

- ① 事業の方法、内容等が優れていること。
- ② 環境・エネルギー技術に関する国際的な調査実績を有すること（【5.（1）】の提案者のみ該当）
- ③ 国際的イベントや大規模会議の運営に関する十分な知識やノウハウ等を有すること（【5.（2）及び（3）】の提案者のみ該当）。
- ④ 当該事業を行う総合的な体制が整っていること。
- ⑤ 事業の経済性が優れていること。
- ⑥ 経営基盤が確立していること。
- ⑦ ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況の有無。
- ⑧ 総合評価

なお、採択審査にあたり、以下の要素で加点を行います。

- 女性活躍推進法に基づく認定企業(えるぼし認定企業・プラチナえるぼし認定企業)、次世代育成支援対策推進法に基づく認定企業(くるみん認定企業・プラチナくるみん認定企業・トライくるみん認定企業)、若者雇用促進法に基づく認定企業（ユースエール認定企業）に対しては加点します。

### (3) 採択先の公表及び通知

#### ① 採択結果の公表等

採択した案件に関しては、事業者名（再委託先・共同実施先含む）、事業概要をNEDOのウェブサイト等で公表します。不採択とした案件については、その旨を不採択とした理由とともに提案者へ通知します。

#### ② 採択審査委員の氏名の公表

採択審査委員の氏名は、採択案件の公表時に公表します。

#### ③ 附帯条件

採択に当たって条件（予算や体制の変更、経費の支払方法等）を付す場合があります。

#### ④ 選定スケジュール（予定）

2026年2月24日：公募締切

2026年3月中旬（予定）：採択審査委員会（外部有識者による審査）※オンラインで説明を頂く可能性があり、提案者には別途連絡いたします。

2026年3月下旬（予定）：契約・交付審査委員会

2026年3月下旬（予定）：採択先決定、NEDOウェブサイトに公表

2026年4月以降（予定）：契約締結

※スケジュールは予定のため、変更される場合があります。

<u>I. ICEF概要と2025年結果</u>	-----	p.3-10
<u>II. 公募概要</u>	-----	p.12-22
<u>III. 委託先の選定</u>	-----	p.24-26
<u>IV. 仕様書概要</u>	-----	p.28-35
<u>V. 問い合わせ先</u>	-----	p.37

### 5.(1)気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

#### ①ICEF年次総会等におけるセッションに関連する調査内容（抜粋）

- エネルギー・環境技術分野を取り巻く情勢を踏まえた上で、全体的なテーマの策定
- 対象技術分野の抽出、要点整理
- 技術分野を構成する個々の技術等（以下「対象技術等」という。）の国内外における技術レベルの現状と課題およびその将来性
- 対象技術等の展開・普及に向けた政策や事業環境のあり方
- 次世代を担う若手人材と連携したイノベーションの促進の方法
- 各セッション（開会式、キーノート・セッション、本会議、閉会式等）の登壇候補者の提案、登壇打診及び登壇者確定までの打合せ・調整、年次総会に向けたモデレーター・登壇者との事前打ち合わせ対応（資料作成含む）、年次総会当日対応及び結果概要作成等の各種事後対応
- 一定の期間、原則として毎週定期的に行われるICEF事務局のみでの打ち合わせ（関係者会議\*）への出席
- ICEF運営委員会におけるICEF年次総会のセッション関連資料等の作成、発表、議事録の作成
- 後述の「広報戦略」、「参加者及び登壇者への事後アンケートの分析、及び次年度ICEF参加者のターゲティング等についての提言」への支援、助言及び作成補助

※関係者会議は第1回キックオフ会議を除き、原則オンラインにて開催。

### 5.(1)気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

#### ②ロードマップに関連する調査内容（抜粋）

- ICEFロードマップの作成にあたっては、担当するICEF運営委員、国内外有識者、主催者と内容等に関して綿密な調整を行う。また、ロードマップの普及に寄与するイベント（COP等）へ参加する場合は、関係者との調整等を実施する。



※ICEFロードマップはICEF運営委員が作成予定。作成の直接費用は予算に含めなくてよい。

- ICEF運営委員、NEDO・経産省等とのロードマップに関する連絡・調整
- ロードマップの内容確認、解説資料作成等
- ICEF年次総会ロードマップ解説セッション含むロードマップ発表イベントの企画・調整業務等

### 5.(1)気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

#### ③ステートメントに関連する調査内容（抜粋）

- ICEFステートメントの作成にあたっては、ICEF運営委員、主催者と内容等に関して綿密な調整を行う。
- また、ステートメント作成時は、IPCC、COP等も含めてエネルギー・環境分野の動向も踏まえた上で発表資料等を参照して作成し、ネイティブチェックも行うこと（完成版は主催者が指定する期日までに日本語の仮訳も作成すること）。



- ICEF運営委員、NEDO・経産省と協議し、ステートメント案を作成。IPCC、COPやその他エネルギー関連の会合等を踏まえて案を作成する。
- 各種関係者の意見を踏まえて、年次総会閉会式でのステートメント最終版発表まで、複数回修正
- 英語版（ネイティブチェック含む）・日本語の仮訳を作成

### 5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

#### 5.(2) ①迅速なICEF事務局の立ち上げ（抜粋）

- ・事業者間の取りまとめ（各種連絡、調整を含む）
- ・本事業全体の工程計画を含む各種工程計画の策定、管理
- ・ICEF運営委員（\*）、登壇者、主催者への各種連絡・調整
- ・主催者と相談の上、主催者・委託先間での資料共有等を目的とした情報共有システムの手配
- ・大使館・領事館、環境・エネルギー関連団体等に対するICEFへの参加依頼や各種連絡・調整
- ・登壇者、賓客等向け招待状の作成・送付
- ・参加登録システムの構築、参加登録データ管理、登壇者情報のデータ管理、データメンテナンス等に係る付随業務
- ・参加者の取りまとめ（スクリーニング業務を行う場合は、その作業含む）、参加登録者名簿の作成、参加登録者数・参加実績数等の集計、報告等
- ・国内外からの登壇者の招聘に係る業務（航空券手配・宿泊手配・招聘に係る書類作成・登壇資料の依頼・調整等を含む）
- ・ICEF運営委員の招聘、ICEF関連イベントへの出席に係る業務（航空券手配・宿泊手配・招聘に係る書類作成等を含む）
- ・広報・情報発信
- ・ICEFが参加する各種広報イベント実施者との各種連絡、調整
- ・外部からの問い合わせ対応

### 5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

#### 5.(2) ①迅速なICEF事務局の立ち上げ（抜粋）

（続き）

- ・ ICEF年次総会前に開催される登壇者等とのセッション事前打ち合わせに係る運営等の業務及び一定の期間、原則として毎週定期的に開催されるICEF事務局のみでの打ち合わせ（関係者会議\*）への出席、議事録の作成
- ・ 会議開催に係る各種資料の作成、必要に応じ資料閲覧用タブレット端末等の手配、議事録の作成
- ・ 参加者及び登壇者への事後アンケートの作成、実施。その結果を用いた参加者分析、及び次年度 ICEF 参加者のターゲティング等についての提言（適宜、5.（1）実施者と協力）
- ・ その他会議開催に必要な作業

※関係者会議は第1回キックオフ会議を除き、原則オンラインにて開催



- ・ ICEF年次総会開催に向けた事務局運営、ロジスティックス業務全般
- ・ 主催・登壇者・一般参加者等との連絡調整業務

## 5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

### 5.(2) ② ICEF運営委員会の運営・手配（抜粋）

- 主催者の指示に基づき、ICEF運営委員会を運営、出席すること（状況に応じてオンライン会議や同システムを併用するハイブリッド形式も想定）。なお、ICEF運営委員会は、国内外での対面開催又はオンライン開催で年3回程度を予定している（開催時期は2026年6月、10月、2027年3月を想定）。なお、6月、3月はオンラインを想定、10月はICEF年次総会前日に年次総会と同じ施設にて対面開催予定）。
- 対面開催の場合は主催者の指示に基づき、適切な会場を手配すること。オンライン開催の場合は最大30名程度が接続可能な通信強度を確保し、通信トラブルが発生しないよう配慮すること。
- ICEF運営委員との連絡・調整、対面開催の場合は必要に応じて招聘に係る業務（航空券手配・宿泊手配・招聘に係る書類作成等を含む）を実施すること。
- 資料等の準備をすること（資料の取りまとめ、作成、印刷（ペーパーレスで行う場合は、資料閲覧用タブレット端末等の手配）、輸送等含む）。
- 議事録の作成をすること。



- ICEF運営委員会（年3回：各2~3時間程度）の運営
- 開催形式：2025年6月（オンライン）、10月（東京(ICEF前日)）、2027年3月（オンライン）を予定（※ 3月の委員会は前後する可能性があり）
- ICEF運営委員との連絡・調整業務
- ICEF運営委員会の資料作成は、主に経産省・NEDO、5-(1)受託者が対応

### 5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

#### 5.(2) ③ ICEF年次総会の運営・手配

- A. 会場手配
- B. 会場設計
- C. 資料作成業務
- D. 人員手配
- E. ICEF年次総会当日運営

※各項目の詳細は仕様書 4～8ページをご覧ください。

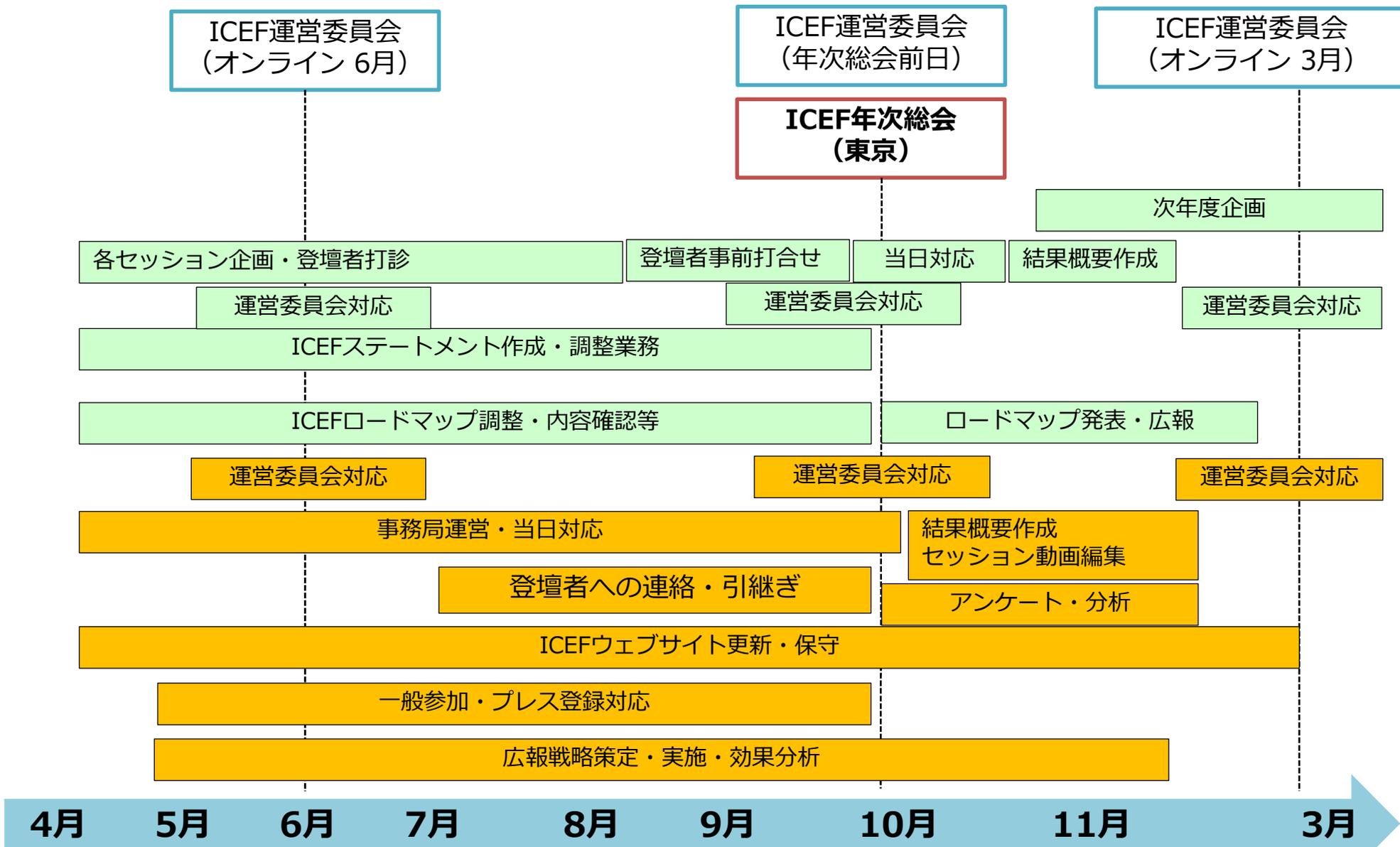
#### 5.(3) 広報、情報発信業務

- ①ICEF広報戦略策定及び実施
- ②公式ウェブサイトの企画・運営・保守及びオンライン動画配信等
- ③広報素材の作成・展示
- ④ICEFの普及に関する広報活動

※各項目の詳細は仕様書8～10ページをご覧ください。

# IV. 仕様書概要

## 2026年度業務スケジュール（予定）※イメージ



**I. ICEF概要と2025年結果** -----p.3-10

**II. 公募概要** ----- p.12-22

**III. 委託先の選定** ----- p.24-26

**IV. 仕様書概要** ----- p.28-35

**V. 問い合わせ先** ----- p.37

- 本公募の内容や契約に係るご質問については、公募資料をご確認いただいた上で、**2026年2月19日（木）正午**までに以下までご連絡ください。
- ただし、審査の経過等に関するお問い合わせには応じられません。

### (問い合わせ先)

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

事業統括部国際2課ICEF担当

E-mail : [icef@ml.nedo.go.jp](mailto:icef@ml.nedo.go.jp)

**本公募ページ（必ずご覧ください）**

**[https://www.nedo.go.jp/koubo/GI2\\_100001\\_00011.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/GI2_100001_00011.html)**